

研究主題

# 中学校における通級による指導の 充実に関する研究

—通常の学級とのつながりを重視した自立活動を通して—

【研究担当者】 長期研修生 高橋 直子  
(所属校 盛岡市立厨川中学校)

【この研究に関する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562

E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

## I はじめに

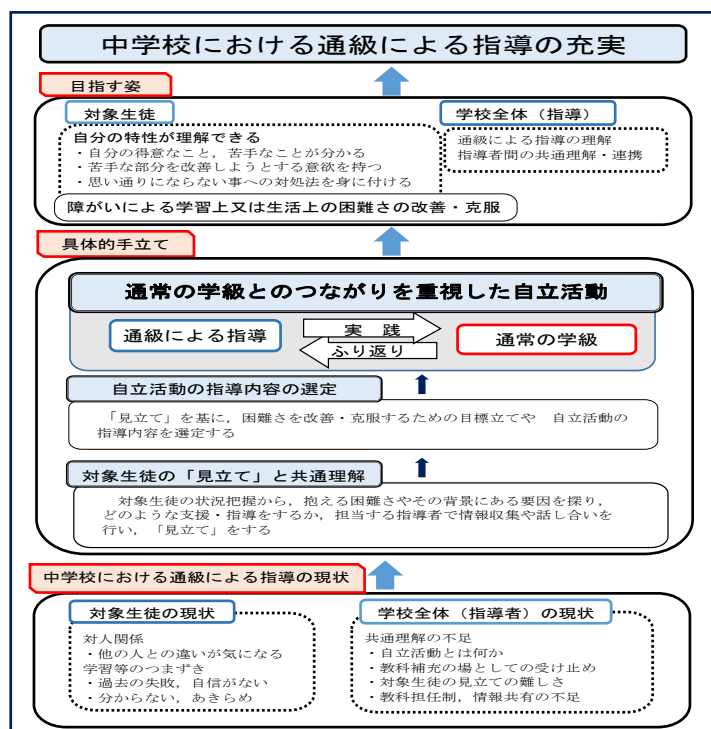
通級による指導の対象となる生徒数は、平成5年度の制度化から年々増加しており、中学校においても通級による指導のニーズは高まっています。しかしながら、支援を必要とする生徒の多くは、様々な思いから指導・支援を受け入れ難く、困難さを抱えたまま通常の学級で過ごしている状況が見受けられます。この状況を改善するためには、対象生徒が段階を踏みながら、自分の特性を理解することや他者との違いを理解し受け入れ、その中で自分の特性をどのように生かしていくかを学ぶ必要があると考えました。

本研究では、通級による指導と通常の学級とのつながりを重視した自立活動の実践を通して、通級による指導の対象生徒が自分の特性を理解し、学習上又は生活上の困難を改善・克服するための方法を提示していくこととしました。

## II 本研究の構想

通級による指導の対象生徒が、自分に合う方法で学習や生活ができるようになるために、障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服する学習を通して、自分の特性を理解することが必要であること、また、指導者間の共通理解・連携がなされれば、学校全体の通級による指導の理解も進むと考えました。

そこで、中学校における通級による指導の現状を踏まえ、目指す姿に近づけるための手立てとして、対象生徒の「見立て」と共通理解を図り、それを基に個別の指導計画を作成し、通常の学級とのつながりを重視した自立活動の指導を行うことと考えました。そして、これらが中学校における通級による指導の充実につながると考え研究を進めました。



### Ⅲ 通級による指導の基本的な考え方

通級による指導とは、通常の学級に在籍している比較的軽度の障がいのある生徒に対し、その障がいに応じた特別な指導を、週に数回程度行う指導のことで、対象となる生徒は、大半の授業を通常の学級で受けつつ、抱える困難さの改善・克服に向けて学びます。

通級による指導で必要とされることの中に、対象生徒の「障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服すること」があります。これを目的とした指導のことを自立活動といいます。この自立活動を行う上では、通級による指導と通常の学級とのつながりが重要になります。そのためには、通級による指導の場が、自分の力を引き出すために行く場として理解されるようになること、学級では、お互いを理解し認め合えるようになることが大事だと考えます。こうしたつながりを重視した指導を通して、対象生徒が自分の特性を理解し、生かせるようになることが、対象生徒の目指す姿と考えました。

### Ⅳ 通級による指導と通常の学級とのつながりを重視した自立活動

自立活動の指導は、対象生徒の「見立て」、個別指導計画の作成、自立活動の指導内容の選定を経て行われます。自立活動の選定は、対象生徒の得意なことや苦手なことを整理し、その中で優先的な指導が必要とされることを、指導内容6区分26項目（新学習指導要領より27項目）から選定していきます。困難さの一つの要因だけでなく、様々な要因が関連していることも考えながら選定します。そして、対象生徒の現段階で必要と思われる指導支援を、通常の学級とのつながりを重視した自立活動として、通級による指導で行います。

通級による指導と通常の学級とのつながりを重視した自立活動の指導の重点を三つ考えました。

一つ目は、指導者の共通理解です。通級指導教室担当者が中心となり、対象生徒のそれぞれの場での様子や情報を共有し、指導につなげていくことです。学習内容や生徒の反応については、記録を取り回覧する方法で共通理解を図ります。

#### 指導者の共通理解

- ・情報共有
- ・観察、声かけ
- ・配慮
- ・周囲の生徒への指導

#### 通級指導教室担当者

学級担任

教科担任

二つ目は、対象生徒の活動です。通級による指導で学習した方法を用い、学級の生活や学習の場面で実践します。実践したことを、通級による指導でふり返ります。これを繰り返し行い、できる体験を増やしていきます。

#### 対象生徒の活動

##### 通級による指導

- ・自立活動
- ・必要に応じて教科の内容を取り入れた学習

##### 実践

できる体験を増やす

##### ふり返り

##### 通常の学級

- ・通級で学習した方法を取り入れ、生活・学習する

三つ目は、通常の学級の生徒への指導です。学級担任が中心となり、対象生徒の理解と協力を求めています。ここではお互いを認め合うような学級の雰囲気づくりが必要とされます。

#### 通常の学級の生徒への指導

- ・通級による指導の理解
- ・学級の雰囲気づくり
- ・対象生徒の困難さに対する協力



# V 授業実践

## ●通級指導教室ならではの指導●

授業の流れや黒板掲示を通常の学級と同じようにする

○授業の流れ

対象生徒A	対象生徒B
1 あいさつ	1 あいさつ
2 今日の調子は？	2 今日の調子は？
3 コグトレ	3 学習課題の確認
4 学習課題の確認	4 コグトレ
5 考える、決める	5 書くこと、話すこと
6 まとめ	6 まとめ
7 ふり返り	7 ふり返り
8 あいさつ	8 あいさつ

○黒板掲示

授業の流れの工夫（生徒の緊張・混乱を軽減）

- ・流れを一定にする → 安心できる
- ・黒板掲示を同じにする → 見通しがもてる

自分のことを表現することの困難さを改善するための方法

コグトレ 対象生徒の右づ困難さの、聞く力や見る力の認知機能を高める

通じたカードの質問に答える

## 学習の記録による共通理解

対象生徒の通級での様子を記録に残し、指導者間で学習内容を共有するため、記録シートを用い共通理解を図りました。

## 対象生徒の困難さに合わせた指導

- ・自分のことを話す場面の設定
- ・聞く力や見る力の認知機能を高める内容

学習記録：指導者が記入

振り返り：対象生徒が記入

学習内容と学習の様子

学習課題や授業の自己評価や感想等を記入する

指導者間で共有できる

学級担任や教科担任のチェックやコメントを書く欄

振り返り項目	達成度		
	A	B	C
① 挨拶を心がけましたか。	○	○	○
② 学習道具はそろっていましたか。	準備	○	○
③ 集中して取り組みましたか。	集中	○	○
④ 「やるぞ！」という気持ちで取り組みましたか。	積極性	○	○
⑤ 時間を守りましたか。	チャイム席	○	○
⑥ ていねいな言葉づかいができましたか。	○	○	○

## ●生活上の困難さを改善するための自立活動●

「気持ちのコントロール」や「ふさわしい判断」の仕方について、学級でよく見られる場面を取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングを行いました。対象生徒は場面を客観的に見ることで、考えを深めることができました。学級で見られる場面を学習内容にすることで、通級で学習したことを学級に戻って試すことができました。学級の場面を取り入れる場合は、学級担任との情報共有をした上で行いました。

文化祭の準備

⑤ → 説明

⑥ → 話を聞いて

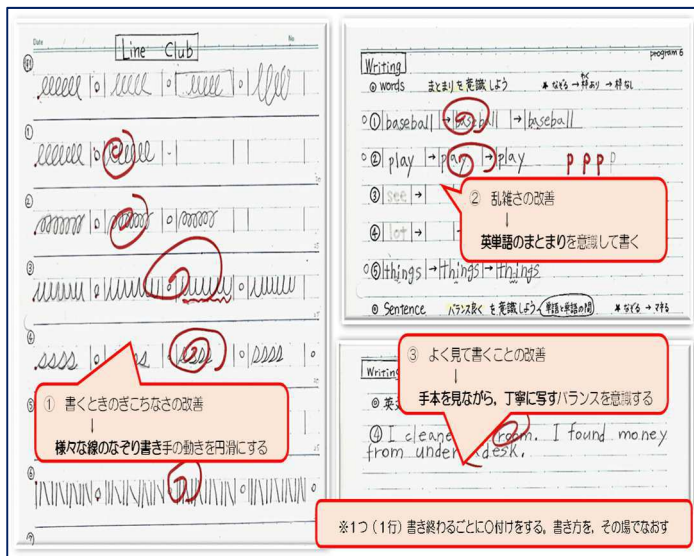
⑦ → 話を聞いて

⑧ → こまめに

通常の学級でみられる場面を取り入れた学習

イメージしやすい。

## ●学習上の困難さを改善するための自立活動●



「書くこと」の困難さを改善するために、自立活動と教科の内容を合わせた学習を行いました。丁寧にバランス良く書くことができるようになるために、最初に関心を書き方について意識することを伝え、見通しを持たせて学習を進めました。取り組みながら、良い点と課題点を評価し確認することにより、対象生徒に意欲をもたせることができました。教科の内容を取り入れる場合は、教科担任と授業の進度や対象生徒の様子などを確認した上で行いました。

## ●通常の学級とのつながりを重視した指導者間の共通理解●

対象生徒が通常の学級で適応できるようになるためには、指導者間の共通理解が重要です。

### ・学級担任⇄通級指導教室担当者間

「対象生徒の状況に合わせた授業を行うため」  
「困難さを把握し、克服するため」など

### ・教科担任⇄通級指導教室担当者間

「通常の学級の学習内容とつながりを持たせるため」「通級指導教室の学習内容を通常の学級での実践につなげるため」など

学級担任⇄通級指導教室担当者			
目的	事前	自立活動	事後
対象生徒の状況に合わせた授業を行うため	授業前に通級指導教室担当者は学級担任に、対象生徒のその日までに困難な状況等があったか、指導して欲しいこと等を聞く。	学級担任から聞いた対象生徒のコンディションによって学習内容や量を変更する。	学級担任は、授業後の対象生徒の様子を観察する。 ・変容が見られない時は、要因を話し合う。(空き時間、放課後)
対象生徒の困難さを把握し、克服するため	学級担任は対象生徒の困難さを、通級指導教室担当者に伝える。	・生徒の困り感を引き出す。 ・生徒ができる方法を、対象生徒と一緒に検討したり、教えたりする。	・通級指導教室担当者は、学級担任に自立活動の中で話し合ったことを伝える。
教科担任⇄通級指導教室担当者			
目的	事前	自立活動	事後
通常の学級の学習内容とのつながりをもたせるため	通級指導教室担当者は、教科担任に、通常の学級での学習内容を聞く。	予習の要素を入れた学習をする。(書き方、問題の解き方等)	通級指導教室担当者は、教科担任に自立活動で学習した内容を伝える。 ・教科担任は対象生徒に、7授業中に声をかける。 ・発言をさせる時に配慮する。(答えやすい、簡単な)
通級指導教室の学習内容を通常の学級での実践につなげるため	通級指導教室担当者は教科担任に前時に学習したことがどれだけできているかを聞く。	ソーシャルスキルトレーニング	通級指導教室担当者は、教科担任に自立活動で学習した内容を伝える。 ・教科担任は、対象生徒が実際に試

## VI おわりに

通常の学級とのつながりを重視した自立活動の実践について、対象生徒の様々な情報を集め「見立て」をすることは、指導者間の共通理解や個別の指導計画の作成、自立活動の指導内容を選定する際に有効でした。個別の指導計画を基に、困難さの改善のために自分が所属する通常の学級での場面や教科の内容を取り入れた自立活動をすることにより、対象生徒自身の困難さを改善するための方法を見出すことができました。また、対象生徒は自立活動で学習したことを通常の学級で試し、ふり返りを繰り返し行うことで、「できた」「できるようになりたい」という自己肯定感を高めることができました。

通級による指導では、一斉指導では見落としがちな部分も、個別に関わることで十分に観察することができ、生徒の状況を確認しながら、困難さの改善のための学習内容の組み立てが可能になります。対象生徒の指導に複数で関わる中学校の現状から、共通理解のための時間の確保など難しい面もありますが、この研究が中学校における通級による指導に役立てられたら幸いです。

研究報告書と補助資料は、当センターのWebページに掲載しております。補助資料のアセスメントツールや自立活動の指導例等、それぞれの状況に合わせてアレンジしながらご活用ください。

【岩手県立総合教育センターWebページ <http://www1.iwate-ed.jp>】